

共同・中継輸送の課題への対応について ～「マッチング」について～

令和5年度

第1回 共同輸送・中継輸送実装研究会

課題②解決のために：研究会への参加促進

研究会の参加者を増やすことが必要

- 道北への物流の検討にあたっては、「物流は一環」の考え方の下、荷主や元請けになっている札幌や旭川の業者の意見・協力が不可欠
- 全国的なドライバー不足が慢性化する中であって、いずれの輸送区間もギリギリの状態を維持していることもあり、他方面への輸送協力は難しいことを踏まえて、可能な協働のあり方を検討



解決策として…

道北地域の物流課題に対応する、旭川・札幌圏を含めた研究会とし、参加者を広く募る

研究会に参加しやすい仕組みづくり

- トラック事業者アンケートを活用し、皆さまの協力会社へも参画を呼びかけ
- 研究会への参加が容易になるよう、規約を改定

札幌の物流事業者等の参加促進

- 札幌での研究会開催を検討
- 札幌の物流事業者へ、研究会への参加を呼びかけ



札幌の物流事業者等が参加することで、道北地域にとどまらず、全道の物流を対象とした協議に拡大することも考えられる



今後、全道の物流を公平な視点で協議する場の設置や、地域ごとの分科会設立の可能性等も踏まえ、それらの展開が可能な研究会のあり方・協議方法を検討する

課題②解決のために：研究会への参加促進

研究会規約変更イメージ

- 対象となる物流事業者を拡大し、参加方法を簡易化

共同輸送・中継輸送実装研究会 規約（案）

令和5年3月15日

7月〇日改定

（名称）

第1条 本研究会は、共同輸送・中継輸送実装研究会（以下「研究会」という。）と称する。

（目的）

第2条 研究会は、道北地域における持続可能な物流システム構築に向けた共同輸送・中継輸送の実証実験が、計画的かつ効率的な準備・検討の推進が図られるよう、必要な検討と調整を行うとともに、本格運用にむけた課題の検討を行うことを目的とする。

（事業）

第3条 研究会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）研究会会議の開催
- （2）共同輸送・中継輸送の実証実験の調整
- （3）共同輸送・中継輸送の実証実験
- （4）共同輸送・中継輸送の本格運用に向けた課題検討
- （5）道北地域の産業・社会情勢を踏まえた取組の検討

（座長）

第4条 研究会に座長を1名置く。

- 2 座長は、研究会の議事運営を統括する。

（構成）

第5条 研究会は、委員のほか専門的な立場から意見・助言を行うアドバイザー会員を置く。

- 2 当研究会に入/退会しようとする者は、**書面等により申請を行い、研究会の承認**を受けるものとする。

（会費）

第6条 会費は無料とする。

（除名）

第7条 委員及びアドバイザー会員が研究会の設立の趣旨に著しく違反した行為をなし、又は研究会の名誉を著しく毀損する行為があった際は、委員の総意によって、当該行為者を除名させることができる。

参加申請書のイメージ

文書番号：

共同輸送・中継輸送実装研究会 参加申請書

申請日 _____

所属 _____

氏名 _____

下記の通り、共同輸送・中継輸送実装研究会への参加を申請します。

企業名			
所在地	〒		
電話番号		FAX番号	
E-mail			
参加目的			
備考			

札幌・旭川トラック協会のアンケート結果

- 令和5年6月、旭川地区トラック協会様ご協力の下、所属する物流事業者様を対象とした、2024年問題への対応状況等に関するアンケート調査を実施、6月末までに79票（旭川トラック協会会員数404社）を回収（回収率20%）
- 札幌地区トラック協会所属物流事業者様へも、同趣旨のアンケート調査を実施しており、現在は、回答が集まってきている状況

調査票の内容

「物流の2024年問題」への対応等に関するアンケートにご協力をお願いします。

事業所名			
所在地	〒		
電話番号			
E-mail ※			
ご担当者	ご所属	お名前	

※確認等で再度ご連絡させて頂く際に、ご記載いただいた email アドレスを使用することをご承諾ください。

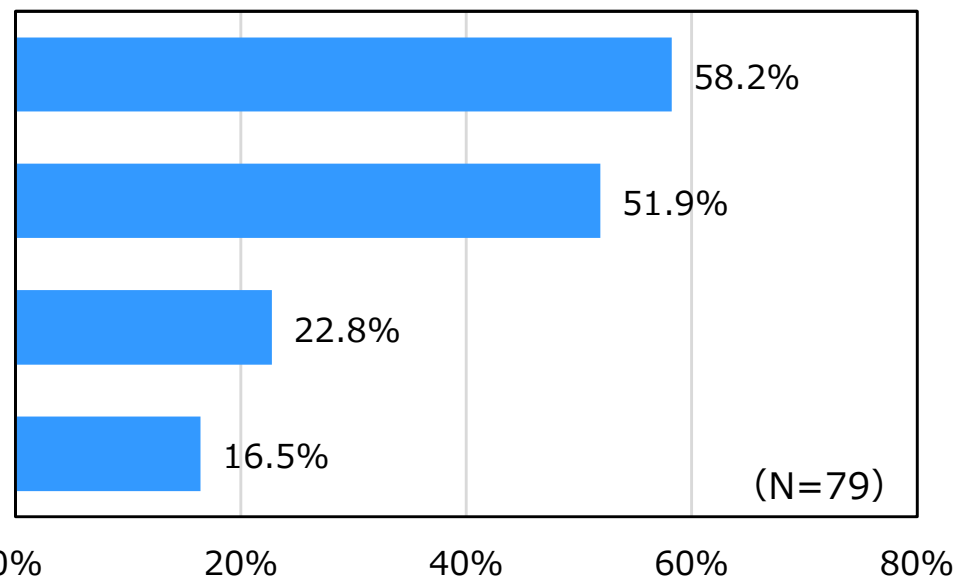
■設問1「物流の2024年問題」への対応状況等についてお伺いします。

2024年度からトラックドライバーに時間外労働の上限規制が適用される、いわゆる「物流の2024年問題」について、貴社ではどのような対応を取っていますか。対応策の実施状況をお答えください。

- すでに対応策を実施している
具体的な対応内容をご記入ください（例）人材確保、パレット輸送の導入、高速道路利用、共同輸送・中継輸送等
- 現在、対応策を検討している・今後実施予定である
具体的な検討内容をご記入ください（例）人材確保、パレット輸送の導入、高速道路利用、共同輸送・中継輸送等
- 対応策が必要だとは思っているが、具体的な対応策の検討には至っていない
具体的な困りごとをご記入ください（例）〇〇市→△△町の間で××（品目）の輸送が困難になる恐れ、等
- 対応策の実施・検討はしていない

2024年問題への対応状況は？

- すでに対応策を実施している
- 現在、対応策を検討している・今後実施予定である
- 対応策が必要だとは思っているが、具体的な対応策の検討には至っていない
- 対応策の実施・検討はしていない



※ すでに対応策を実施しているが、更なる対応策を検討している事業者様もいるため(複数回答)、合計は100%にならない

- ① 「すでに対応策を実施している」と回答した46社のうち、**6社が、中継輸送を実施**
- ② 「現在、対応策を検討している・今後実施予定である」と回答した41社のうち、**6社が、中継輸送を検討**

課題②解決のために：マッチング方法の検討

マッチングの場としての研究会の活用

- 物流事業者が話し合う場としての研究会の課題

道内物流における課題は多岐にわたり、
物流事業者のニーズ・課題解決の
優先順位もそれぞれ異なる

ひとつのテーブルで議論する方式
では個々の課題解決は難しい



解決策として...

ワークショップ形式にすることで、研究会を、物流事業者同士が同じテーマで本音で語り合える場とする

■ ワークショップのメリット

活発な議論が期待できる

個々の課題やアイデアを話し合いやすい

当事者意識・達成感が得られやすい



参加者を3~4人の
グループに分けて
話し合う



課題②解決のために：マッチング方法の検討

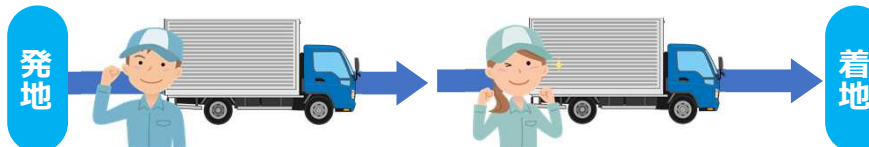
マッチングが難しい輸送方法

ドライバー交替方式

現状 1人のドライバーが発地から着地まで輸送



共同輸送・中継輸送 途中でドライバー交替

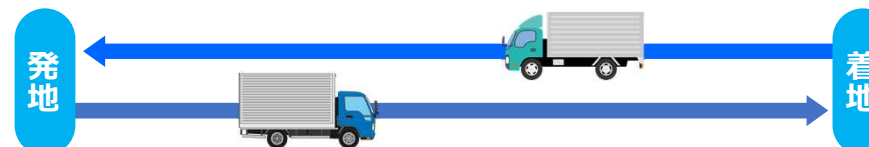


- ドライバー不足の現状ではマッチングは困難
- コストも大幅に増える

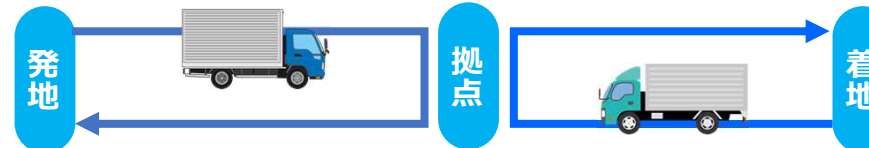
マッチングし易い輸送方法

中継拠点で荷降ろし・荷積みして折り返し輸送

現状 1人のドライバーが発地から着地まで輸送



共同輸送・中継輸送 拠点で折り返し



- ドライバーを増やす必要がない
- 往復積載となり効率的に運べる

輸送車両の大型化(積載率が高い区間)

現状 積載率50%以上でそれぞれ輸送



共同輸送・中継輸送 車両を大型化して中継



- 車の大型化が必要（小規模事業者には難）
- 大型車両の運転スキル・設備も求められる

中継拠点で荷降ろし・荷積みして折り返し輸送

現状 積載率50%未満でそれぞれ輸送



共同輸送・中継輸送 満載にして中継



- 現有車両をそのまま使用可
- 満載状況になり効率化

課題②解決のために：第3者機関の関与

ワークショップ中・ワークショップ後の事務局・第3者機関の役割

マッチングの「種」の探索・次の段階へ進む機会のセッティング

- ワークショップの中で、マッチングの可能性のある輸送・参加者様を抽出し、両社へお声がけ・具体的な取り組みに向けた協議の場をセッティング

具体化に向けた課題解決のお手伝い・関係機関との調整役

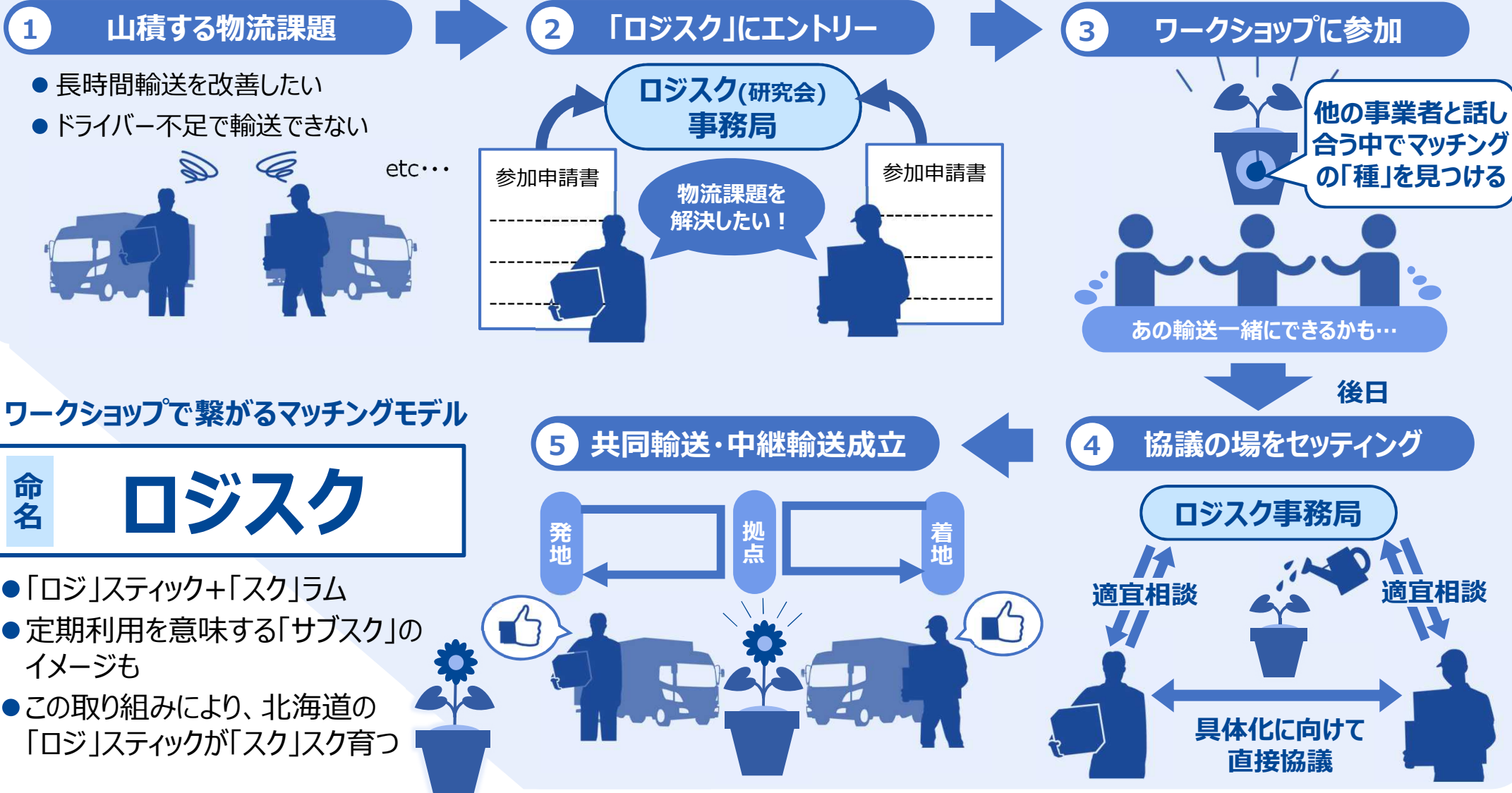
- 共同輸送・中継輸送の取組を具体化する中で、事例紹介や関係機関との調整等、必要に応じたお手伝いを実施

マッチング・取り組み実現に至るノウハウの蓄積

- マッチングが成立した事業者様から、成立に至る経緯や、取り組みのノウハウを、差し支えのない範囲でお伺いし、他の事業者様が参考に出来るよう、成功事例とそのノウハウに関する情報を蓄積

課題②解決のために：北海道マッチングモデル「ロジスク」の提案

研究会ワークショップを活用した長期契約タイプの北海道マッチングモデルの構築



課題②解決のために：「ロジスク」の概要と目標

なぜ「ロジスク」なのか

- 多い物量・単発の契約を前提にした既存のマッチングアプリは、北海道の物流の現状には不適合
- 事業者や輸送内容により、ケースバイケースな課題に対応し、両社が「得」をする輸送を見つけていくためのスタートラインとしては、ワークショップ→二社間協議による、きめ細かいマッチングが望ましい

今年度の取り組みの目標

- ワークショップでのマッチングの「種」の発見から、二社間協議を経て、恒常的な共同輸送・中継輸送を年度内に1～2件成立させることを目標とする

今年度の成果・来年度以降の目標

- 成立事例から、成立に至った経緯やノウハウを把握し、蓄積する(将来的に、マニュアル化・システム化の可能性)
- 成立事例を周知・PRし、道内にロジスク参加の輪を広げる

課題③解決のために：商流の問題

経済産業省によるフィジカルインターネットの取組

経済産業省では、物流の世界にインターネットの形を再現して効率化を図る「フィジカルインターネット」の取組に着目



都市間の移動距離が長く、食糧基地でもある北海道は、物流課題がより顕著であり、持続可能な物流機能構築の重要性が高い地域



令和5年7月下旬、「北海道地域フィジカルインターネット懇談会」開催予定

令和5年度の共同輸送・中継輸送実装研究会関連スケジュール

共同輸送・中継輸送
実装研究会

北海道開発局による
中継輸送実証実験

